１　竹田市（介護保険事業について）

　　高齢者福祉課参事より取り組んでいる事業について説明を受けました。

　　人口減少に伴って７５歳以上の比率は市では全国１位、６５歳以上では４位と、人口は約２２,０００人高齢化率が４５．１％、介護保険料は５,５００円と抑えた金額です。

　　　要介護状態になっても住み慣れた地域の中で暮らすことを目標に「地域包括ケアシステムの構築」を充実させてきている市です。市内を７ブロック（中学校校区）に分けて地域の中で住民が主体となって生活支援から介護予防の暮らしのサポートする組織を立ち上げてきている。

　　　市長をトップに関係機関と住民が自由に議論できる、竹田市雇用創造推進プロジェクト会議を立ち上げて月２回の会議を進め、「ささえ愛のある地域づくりの推進」として、今まで行政主体でサービスをつくり、誰かがしてくれるなどであったが、「住民主体で地域づくり、私たちがやろう、継続可能な体制で気楽に参加できること、お互いにできる事をし、将来のために」の発想の転換を推し進めて元気な高齢者をになっる事業展開をしている。介護予防教室では、インストラクターの養成を受けた住民が「竹田ヘルスフィットネス」を結成して企画から高齢者サロンに出前講座をおこなっている。通いの場では、気楽に立ち寄ることができる場を「手芸・囲碁・木工」等が取り組めてコーヒー・定食などを提供できるような場づくり（月から金曜日で１００円から３００円）、生活支援サービスは、家事・草そり・ペットの世話など（年１,０００円登録制・利用は３０分４００円から６０分８００円で２５％は互助団体の活動資金としている。）季節行事やイベントの開催による住民の交流促進につなげている。

　　　これからの課題として生活を助け合う地域づくりや買い物に対しての支援等今までの事業の見直しと人材育成が不可欠との事でありました。

２　豊後高田市（給食無償化と学びの２１世紀塾について）

　　　住みたい　住んでみたい　まちをうたい文句で、平成２６年から１３９世帯の２９３人移住をしてきたまちです。豊後高田市は人、人口２２,８００人、高齢化率６５歳以上が３７．６％です。

　　　市上げて、日本一の子育て支援・教育環境に向けて事業展開をしています。高校生までの医療費無料化、幼稚園・小中学校給食無償化、教育のまちづくりとして「学び２１世紀塾」や学びのひろば、移住者に向けた土地の無償提供・空き家バンク、移住女子応援等、大きく９事業を行っている。

医療費無料化については、約３,０００人を対象に約７,７６９万円、給食無料化に　　　　約６,２１５万円等、財源については「ふるさと納税」を充てているとの事でありました。

　　　学びの２１世紀塾は、１６年前から取り組み市内の小中学生はほとんどが利用をしているとの事でした。事業は、知・徳・体の三本柱で行っている。知は、寺子屋事業で土曜日講座・水曜講座・夏冬特別講座・ステップアップ講座・放課後寺子屋講座・テレビ寺子屋講座・寺子屋放課後児童クラブの七事業。徳は、週末こども育成活動・冬にステップアップスクールの二事業、体は、まなびのひろば・市民講座・高校生のための学びの２１世紀塾を行っている。この事業行うのに、講師の登録は、市民の方４５名、教職員１０４名に体験活動の人達を入れると総勢で３６０人なるとのことです。それぞれの事業内容は、算数・国語・理科実験・英語・数学は予習でなく復習をすることとしている。パソコン・そろばん教室などを行い市内において２９年度では８６講座、１７９教室、塾生数は２７００人、指導員数２７９人、ボランティア２３４人が子供たちにかかわっている。過疎化や少子化が進む中、学習する機会や場が少ないことで教育環境を整え地域間格差をなくするために、前向きで学習意欲のある子どもの育成に市を挙げて取り組んできたことで、７年間で２９２人の社会増につながってきている。

　　　それぞれの市において行っていることは、職員の取り組む姿勢も当然ではありますが、地域の人達の協力がなければならないと感じた。コツコツと取り組んで理解を求めていかなければならないと感じました。